



園だより

2020年10月1日 第7号

杉並区立高井戸保育園

(指定管理者 社会福祉法人 東京家庭学校)

朝晩めっきり涼しくなりました。本当に秋の空は高く澄みわたり、気持ちの良いものです。青空の下、身体を動かすにはちょうど良い季節です。気持ちよく身体を動かした後は、食べ物も美味しくいただけますね。旬のものを美味しくいただいて丈夫な体作りをしていきましょう。

いよいよ10日は運動会です。今年は3歳児クラスから5歳児クラスの参加となります。子どもたちひとり一人の一生懸命が輝き、そして、何より子ども自身が楽しめる運動会にしていきたいと思っております。乳児クラスのお友だちが“おにいさんおねえさんがんばって！”と応援の旗を作ってくれているようです。当日が楽しみです。

秋まつり 無事終了しました

~~~~~ 9月4日(金) 新しい企画の秋まつり ~~~~~

今年の秋まつりは、年長組のみんなが中心となり、楽しい企画で盛りだくさんでした。御神輿も登場、食べもの屋さんには、たこ焼き、かき氷、綿あめもあり、ゲームコーナーには的当て、ボーリング、魚釣り、輪投げ、ヨーヨー釣り等々、たくさんのお店が並び、大盛況。子どもたちの手作りで大いっぱい！子どもたちがみんなで作り上げた秋まつり・・・それは、楽しい、嬉しい、「やったー！」の思い出の一日となりました。

\*\*\*\*\*

### 絵本はたからもの

\*\*\*\*\*

絵本は、子どもが生まれてはじめてであう『本』です。

子どもは絵本を読んでもらうのが大好きです。大人の膝にちょこんと座り読んでくれる大人の声を全身で感じながら絵本に見入っています。『読み聞かせ』では、文は大人が読むので、子どもは文を『耳で』聞きます。『目で』読む必要がないので、文が読まれる間、『目で』絵をたっぷり見ることができます。見ながら聞けるし、聞きながら見られるので画面の絵からも物語を読み取ろうとします。次はどうなるのか、きっとこうなるのではないかと期待が高まるのです。耳で聞く言葉と絵から読み取った言葉とが内面で重なり合う時、そこに豊かな「絵本の世界」が想像されるのです。子どもの好きな絵本を繰り返し読み語ることは、子どもの想像力と言葉の力を養い育てることになるのです。

子どもが読み聞かせを好むもう一つの魅力は、なんと言っても大好きな大人を独占できること。子どもは自分のために読んでくれている大好きな人の表情や声と一体になった絵本の世界を味わっているのです。絵本の読み聞かせは、大人と子どもが心を通い合わせられる時です。大人も子どもと一緒に絵本の世界にひたってみてくださいね。

### 子育てメッセージ

#### 《見ててね。見てるよ》

子どもは、いつもお父さんお母さんに自分をみてほしいもの。でも忙しい毎日、子どもの「みててね」ということばに、つい「今、忙しい」といってしまいがちです。「見てるよ」とことばを返すだけで、子どもは安心するのです。

#### 《子どものころ見えますか？》

子どもはいつでも、ありのままの姿を見せてくれます。不安なことがあれば、甘えたり、泣きわめいたり、わざとお母さんをこまらせてみたり。あらゆる方法で、精いっぱい伝えようとしています。いくつになっても、子どものころの中には、親に気づいてもらいたい気持ちがあるのです。